

平成3年度 和歌山県文化奨励賞

たい ち き わ こ 太 地 喜 和 子

住 所：東京都新宿区

出 身 地：東京都

生 年：昭和18年

その他テレビにも数多く出演している。

優れた演技で、演劇文化並びに映画文化の向上に尽くした功績は大きい。

◎業績及び経歴

父が新宮市出身で、本人も幼年時、和歌山県に疎開した経験をもつ。

私立松陰高校卒業後、昭和38年俳優座養成所へ入所。杉村春子の「欲望という名の電車」を観て感動し、42年同養成所を卒業後、文学座研究所へ入所。44年文学座員となる。

昭和43年、文学座研究所在籍中にアトリエ公演「タンゴ」のアラ役で舞台デビューした。

以後、着実に実力をつけ、50年に「蕨原検校」、
「越後つついし親不知」での演技が認められ、紀伊国屋演劇賞個人賞を受賞、56年には「元禄港歌」、「雁の寺」により芸術選奨文部大臣新人賞を受賞するなど、わが国を代表する女優の一人となる。

舞台の代表作には、上記の他「飢餓海峡」(昭和47年初演)、「越前竹人形」(58年初演)など一連の水上勉の作品や紀州を舞台にした「華岡青州の妻」(62年初演)、「出雲の阿国」(平成2年初演)などの有吉佐和子の作品、「近松心中物語」(54年初演)などがある。

又、昭和43年には「蕨の中の黒猫」でスクリーンにデビューした。

45年に日本映画制作者協会新人賞、48年に「新座頭市物語・折れた杖」で京都市民映画祭助演女優賞、52年には「男はつらいよ・寅次郎夕焼け小焼け」で報知映画賞助演女優賞とキネマ旬報助演女優賞をそれぞれ受賞している。60年には、熊野を舞台にした中上健次オリジナル脚本の「火まつり」で奔放でしたたかな女を好演し話題になった。